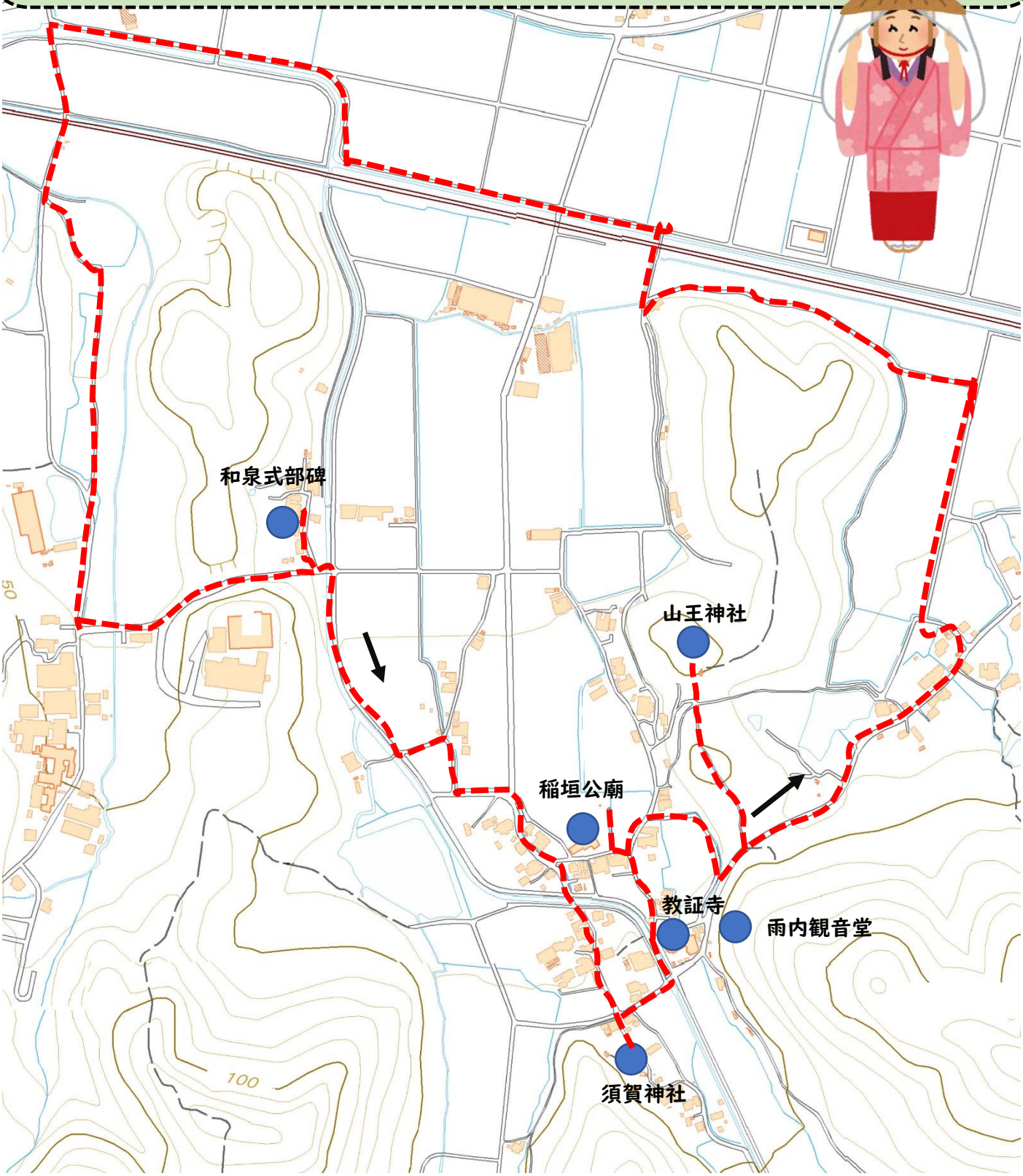
相生探訪ウォーキング

～初冬の若狭野町雨内を存分に味わう～

たっぷりウォーキングと和泉式部伝説



雨内は古代秦氏の時代から脈々と引き続いた歴史を持つ所です。この地の開拓は秦氏の臣下である稲垣（いがき）氏により行われたと言われています。
中世には和泉式部が訪れたと言われる伝説がのこり、近世に入ると鉱山開発により、安政年間まで銀・銅が盛んに発掘され、若狭野陣屋から大阪に送られていました。

和泉式部伝説

平安の時代、和泉式部はわけあって娘の小式部を寺院の前に捨て子した。その後書写山円教寺に来た際、人づてに聞いてこの地に娘を探しに来た。雨内にさしかかると、激しくなった雨に式部は道端の栗の木の下に身を寄せた。その時不思議にも枝がしだれ、式部を雨からかばってくれたという。少女の案内で五郎太夫の家に宿をとった。少女が持っていた守り本尊で我が子小式部とわかったという。五郎太夫は快く小式部を手渡し、身代わりとして小式部は守本尊を残した。

稲垣公廟祭（おとう）

稲垣公廟の祭りである稲垣公廟祭は「お頭（おとう）」と呼ばれ、12 月 5 日（現在では 12 月第 1 日曜日）に行われる。
その年の世話役「頭家（とうや）」になると、1 年間四つ足の動物はたべられないという。頭家は雨内部落約 50 軒のうち 5 軒（現在は 5~ 6 軒）が順番に受け持ち、地区内にある神社の餅撒き用の餅から、正月のお供えまで一切の世話をする。おとうの当日は公廟の前に集まり神官のお祓いを受けて稲垣氏の功績に感謝し、豊作と家内安全の神事が行われる。神事が終わると頭家の内の一軒に集まる（現在は公民館）。頭家の代表の挨拶が終わると頭家の家族の男性がつくった食事を頂く。給仕は全て頭家の男性で女性はその場には一切姿を見せない。

雨内山王神社

山王神社は山王信仰に基づき各地に存在する神社である。相生市内には二社が現存する。あとひとつは矢野町の三濃山山王神社である。
山王信仰とは比叡山山麓の日吉大社より生じた神道の信仰である。

稲垣公廟

千種川流域は秦氏により開発が進められ現在の基礎を築いたと言われている。秦氏は家来の稲垣氏に雨内の開拓を命じた。石が多く困難を極め、激務のため死亡した。村人は氏の功績をたたえ、一か所に集めていた石の上に稲垣公廟を建て、毎年米の収穫の終わった 12 月に稲垣公廟祭として氏の遺徳を偲んでいる。

雨内観音堂

一見小さいお堂だが、江戸時代の地図に載っている。
本尊：聖観音を祀る。

和泉式部碑

和泉式部伝説により大正 4 年栗の木があった地に黒田氏が石碑を建立した。栗の木の皮の一部が今も残されている。また、那波の得乗寺にあるしだれ栗はこの栗の木が移植されたものだという。

雨内須賀神社

祭神：素盞嗚命を祀る
由緒：創建年月日不詳

古巖山教証寺

本尊:阿弥陀如来を祀る
しだれ栗の縁起書がある。

これまでのウォーキングマップは
HP 相生探訪ウォークキング を
ご覧ください